

メールレター(36)

2020年新春

新春のお慶びを申し上げます。

2020年のお正月は雪模様です。去年は、珍しく雪のない、白くないクリスマスでしたが、大晦日少し前から降り出した雪は止まらず、そのまま年を越しました、しばらく続くようです。白く覆われた古都は、風情があり、ピュアな雰囲気漂っています。心新たかになれそうです。

大晦日の年越しは、ドリトル先生にはやはり、あのシャンペンです。ポーンと勢いよく栓が抜かれ、泡立つ感触には胸がときめくようです。我が家は老夫婦のみ。グラスも二つだけ。眼下の港には雪の夜空に花火があがります。静かに降る雪と交錯する華やかな花火の色は絵のようです。花火がグラスに映っている間に、それ、もういっぱい、さらに、もういっぱい。。。娘から12時ぴったりに「おめでとう」の電話がかかったころは、かなりほろ酔い加減でした。娘は時間に正確なのです。シンデレラでなくてよかったのかもしれませんが。時間きっかりで、慌てて片方の靴を忘れておらず、かぼちゃの馬車にきちんと乗り込みそうです。

朝まで続いた新年を祝うざわめきは雪の中に消え、降る雪とともに新年は明けていきます。今年はどうなることやら、と様々な思いにかられるドリトル先生とマダム田中は、元日は長男の家でのランチに呼ばれました。新年のお料理は特にありませんから、いつも通りです。長男は、ベネディクティン風の朝食を作ってくれました。イングリッシュマーフィンに卵(ポッシュ)、トマトとベアネーズソースをかけたものです。長男はそれにボコチニーズを加えていました。かなりしっかりとした朝食になります。お雑煮や御節に思いを馳せながら、シャンペンとベネディクティン、それもまた良いものです。

「ねえ、パパ、これ、どう思う」

長男は、パートナーの薬指に輝くダイヤの指輪を見せ、微笑むのでした。

クリスマスの我が家のパーティーで、彼のパートナーはダイヤのイヤリングとペンダントをつけてきました。

「彼の贈り物なの」

嬉しそうでした。シンプルなデザインですが、細かい輝きを出すダイヤは綺麗にパートナーを飾っていました。ソーシャルライフが少なくなり、何でもインターネットで済ます当節ですが、宝石は、同伴する女性の美しさをどんな場合でも演出してくれます。このクリスマスパーティーの折、

「これにはまだ続きがあるんだ」

と意味深長な言葉を残して帰って行ったのですが、あーこのことだったのだと納得しました。

「婚約指輪かい？」

とドリトル先生はわかっていたよと言いたげにたずねるのでした。

「そうなんだ。夏頃結婚しようと思って。子供達にも聞いてみたんだ。一人一人にね。まず、彼女の長男に、どう思うかって、次に、彼女の次男に、それから僕の息子、そして、娘にね。皆、大賛成で大喜びだった。」

「それは良かった。子供達の気持ちは大事だからね。」

「家族全員を連れて新婚旅行に海外に行くのも良いかもしれないし。」

「ともかくお祝いしよう。乾杯だ、婚約おめでとう。」

シャンペンでまたお祝いです。2年前の元旦には娘に結婚宣言をされ、ひっくり返えるほど驚いたのですが、2年後の元旦は義理の長男の再婚宣言です。まさか、4回目の結婚式があるとは。。

義理の次男はといえば、年末は友人夫婦や、従兄弟、お嫁さんの親友が泊まりこみ、家族を加えると総勢8人の面倒をみながら楽しく年越しをしたようです。大学教授の仕事はお休みがしっかりあるせいか、家事に専念し、ロブスターや、鴨料理、キッシュ、など料理に尚一層熱をいれていたようです。1週間以上滞在する4人のお客様の接待でクタクタになっているかもしれません。お客様にはカリブ海のマルチニクからやってきた、50歳の独身貴族の従兄弟(ドリトル先生の甥)、スイスからやってきた、お嫁さんの親友の43歳のデラシネの独身の女性がいましますし、カップルで来た長年の友人はパートナーに養われています。人生はアラフォーから大きく舵取りが変わるようです。

雪はまだ降り続けています。新年が良い年でありますよう心からお祈りしております。